



INTERVIEW

福島で、実現する。

あなたが実現したいことは、なんですか？



薬学

先輩職員インタビュー

「幅広い役割から、県民の医療・健康を支える」

所属

県南保健福祉事務所 医療薬事課

● これまでの経歴

H27~H28 保健福祉部 薬務課

H29~R 2 商工労働部

医療関連産業集積推進室

R 3~ 県南保健福祉事務所

医療薬事課

Q. 現在の仕事内容とそのやりがいについて教えてください。

A. 主に、薬局やドラッグストアなどの医薬品を取り扱う施設に対する許認可や立入調査業務などを行っています。また、献血推進や薬物乱用防止に関する事業や、新型コロナウイルスへの対応にも関わっています。医療や健康という身近で重要な分野において、福島県としての方針を波及させていくことに大きな責任を感じます。また、保健所職員として新型コロナウイルスに対応する中で、薬学の知識を活かすことができ、やりがいを感じました。

Q. 福島県職員として、実現したいこと、目標としていることは何ですか。

A. 福島県では「全国に誇れる健康長寿県へ」を県民一丸となって目指す目標の一つにしています。その土台として、質の高い、安全な医療・公衆衛生の確立が求められると思います。法規制の観点や新たなモデルケースなどを関係する方々に丁寧に橋渡しすることで、“医療を提供する側・受ける側双方が誇りを持てる県づくり”の一端を担えるよう頑張っていきたいです。



↑ 薬物乱用防止指導員研修会での説明



Q. 本庁と出先の雰囲気の違いについて教えてください。

A. 本庁では、県全体を捉えての事業構築や予算の折衝、調整が多く、クールな雰囲気ですが、執務室全体が一心同体、同じ方向を向いて取り組む一体感があります。

出先機関では、同じチームの職員同士で相談し合い、先輩から経験を共有してもらうなど、より近い距離で仕事ができ、自分の担当業務以外も学びやすい雰囲気です。



↑ 医療機器販売業者での調査



↑ 薬局での調査

Q. あなたをキーワードで伝えるとしたら、どんな言葉が思い浮かびますか。

A. 「チームワーク」「様々な経験のチャンス」「民間病院の薬剤師から県職員へ」
「福島県の良さを知った」「休日のはのんびり」

Q. 「様々な経験のチャンス」について教えてください。

A. 数年ごとの勤務先の異動は、慣れた職場から離れることに心細さもありますが、短期間で多くのことを経験ができるチャンスでもあり、県職員ならではのと思っています。医療関連産業の振興を担当した際は、海外出張も経験し、世界の中での福島県の強みなどにも触れることができました。

Q. 「福島県の良さを知った」について教えてください。

A. 県内のニュースや地域の特産品、立地する企業のことなど、県職員になってから、たくさん調べるようになり、身近な人に福島県の良さを具体的に伝えられるようになりました。休日に、県内の市町村を巡る旅を始めたいなと思っています。